

# 西村清太郎記效碑

中林二丁目  
市指定有形文化財（歴史資料）  
指定年月日 令和5年7月1日

にしむらせいとうきこうひ

西村清太郎記效碑は、大正8年（1919）、西村清太郎の門下生有志により中林に建立されました。西村清太郎（明治2年～大正8年（1869～1919））は、明治から大正年間に中林に武道館を建て、多くの門下生を生み出したほか、武道だけでなく農産業や地域の振興にも貢献した人物です。

石碑の表面には石川県師範学校教諭畠山観成の書によってその業績が、裏面には約150名の中林・粟田、及びその近郊の門下生の名前が刻まれています。

碑文によると、清太郎は町田半兵衛より撃剣、抜剣、体術、棒、薙刀、鎌、鉄尺の技を学び、武術を極めたとあります。今日の中林や粟田の獅子舞の多彩な棒振りの演目は、清太郎の影響下によるものと考えられます。



西村清太郎記效碑

また、中林の獅子舞は巡行時に、必ず西村清太郎記效碑前で演舞をしています。



記效碑の前での演舞

（昭和40年代 『富奥郷土史』より）